

令和8年度 北部地区子ども支援net 事後アンケート

令和8年6月24日（水）

りゅうがく館 講堂

参加者： 44 名

回答者数： 33 / 40 名 （講師、事務局除く）

回答率： 83%

1.ミニ研修について「問題行動の理解～背景の理解と対応～」

【研修全般について】

- ・高橋先生の講話がとても分かりやすく、心の栄養になりました！
- ・基本的なことですが、とても大切な内容で大変勉強になりました。
- ・子どもたちの行動の背景や「困り感」に目を向けることの重要性を再認識できました。
- ・理解できているようで、実は見落としていた部分があったことに気づかされました。
- ・日常のバタバタした現場から一歩離れて、子どもへの関わり方をもう一度見つめ直す、非常に良いきっかけとなりました。

【支援や関わり方、視点への学び】

- ・「良い養育者とは機嫌が良い養育者」というキーワードが大変心に響きました。どんな職種であっても、まずは自分自身が機嫌よく安定していることが大切だと学び、明日からの実践に活かしたいです。
- ・問題行動そのものを責めたり力で抑えたりするのではなく、本人の視点に立って、その背景にある「困り感」をチームでしっかりと観察・理解していこうと思いました。
- ・自信をなくしている子、失敗を恐れている子に対して、支援のハードルを少し下げてあげることが大切だと感じました。「できた！」という成功体験をたくさん積み重ね、信頼関係を構築していくことが成長に不可欠だと強く思いました。
- ・子どもの育ちの段階や、小学校高学年以降に不安定になる事例など、事例を思い浮かべながら深く納得できる内容でした。

2.グループワークについて

【多職種連携・他機関連携での気づき】

- ・他職種・他機関の方々が抱えるリアルな課題や、それぞれの視点をじっくり聴くことができ、大変貴重な機会となりました。
- ・学校側が個別の支援計画を立てて、それを学校全体できちんと共有・実践しているというお話を伺い、素晴らしい取り組みだと感銘を受けました。
- ・学校やこども園、児童発達支援センターなど、お互いの現状や「困り感」を直接知ることができて良かったです。
- ・気になる子どもがいても、保護者自身にまだ療育などのニーズや理解がない場合に、どのようにアプローチし繋げていくかという「繋ぎの難しさ」について共通の課題意識を持ってました。
- ・大きな問題になる前に、早期に介入すること、そして何より「早めの連携」が重要であると、立場を超えて痛感しました。
- ・それぞれ置かれた立場や困りごとの形は違っても、「みんなが子どものことを真剣に考えている」という熱意や共通の思いを共有でき、心強く感じました。

【ワークの雰囲気】

- ・顔の見える関係を作ることができ、終始話しやすい雰囲気でもとても有意義な意見交換ができました。

3.運営全般について

- ・非常にわかりやすく、スムーズな進行・運営をいただき、ありがとうございました。
- ・さまざまな事前準備をしてくださった事務局・スタッフの皆様に感謝いたします。

【要望・改善提案】

- ・今回、研修時間が2時間を超えたため、あらかじめ案内チラシ等に「終了予定時刻」を明記していただけると、その後の業務の都合やスケジュールの調整が立てやすくなり大変ありがたいです（複数名から同様の意見あり）。

4. 「困り感のある子どもへの支援」に関する課題や知りたい情報について

①.あなたが感じている、地域の課題等がありますか。

○専門機関との連携・相談体制：

- ・児童相談所（児相）とのさらなるスムーズな連携体制。
- ・不登校やひきこもり状態にある子ども、およびその家庭を早期に発見し、気軽に相談できる窓口や場所の確保。

○地域資源・インフラの不足：

- ・発達検査のニーズが現場で非常に高まっているにもかかわらず、検査を実施できる専門機関や専門職が圧倒的に不足しており、順番待ちになっている現状。
- ・事業所自体が存在しない地域があり、必要な子どもが十分な支援を受けられないという地域格差。

○家庭・保護者への支援とアプローチ：

- ・家庭支援が本当に必要な世帯への効果的な関わり方や、機関連携のあり方。
- ・関係機関の情報共有をスムーズにし、保護者の手続きや説明の負担を軽減させるシステムづくり。
- ・療育や支援を受けている保護者同士が、孤立せずに気軽に集まり、悩みを共有できる「交流の場」がもっと必要。

②.今後開催してほしい、研修や知りたい情報などがありますか。

- ・不登校の児童生徒に対する、具体的な関わり方やアプローチ事例についての研修。
- ・療育に関する基礎的な知識から、現場での実践的なアプローチ方法。
- ・中学生・高校生（思春期・青年期世代）の特性の理解と支援について。
- ・課題を抱える保護者への支援・家族アプローチについての専門的な内容。
- ・今回のように、多職種が一堂に会して顔を合わせ、気軽に話し合いや情報交換ができる機会を、ぜひ今後も定期的に継続してほしいです。
- ・今回の研修内容（問題行動の背景理解）が非常に素晴らしかったため、持ち帰って自所のすべての職員に共有し、全体の共通理解としたいです。

5. その他（ご意見、ご感想など自由にお書きください。）

- ・大変勉強になりました。本当に貴重な機会をありがとうございました。
- ・普段の業務の中ではなかなかお話しできない他職種の方々と、じっくり情報交換ができるこの時間は、地域にとって大変貴重だと実感しました。またぜひ参加したいです。

【あなたのことをお聞かせください】

○職種

<input type="checkbox"/> 学校等（小、中、高、他）	9名	<input type="checkbox"/> 保育機関（幼、保、認定こども園）	6名
<input type="checkbox"/> 療育機関（児発、放デイ・児発C）	11名	<input type="checkbox"/> 学童	名
<input type="checkbox"/> 相談支援事業所	2名	<input type="checkbox"/> 医療機関	1名
<input type="checkbox"/> 行政機関（市町村）	3名	<input type="checkbox"/> 行政機関（県）	1名
<input type="checkbox"/> その他	0名	<input type="checkbox"/> 未回答	名

○職名

事業所【管理職：管理/児発管（5）、児童指導員（4）保育士（2）相談支援専門員（2）】
学校【教諭（6）養護教諭（2）】、幼稚園/保育所【保育士（4）幼稚園教諭（2）】、
医療関係【精神保健福祉士（1）】
行政【市町村：主査（2）、県：保健技師（1）】

経験年数

<input type="checkbox"/> 1～3年	6名	<input type="checkbox"/> 4～6年	7名	<input type="checkbox"/> 7～9年	4名
<input type="checkbox"/> 10年以上	16名				